

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **53** 平成27年
(2015) 9月

CONTENTS

- 1~2 地方都市へ移住する若い世代の実情と彼らが地域に与えるインパクト
情報ひろば
- 3 兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」について
- 4 地域支援活動の紹介
- 5 HAT神戸掲示板
- 6~8 人と防災未来センター
MIRAI

管理部

研究調査本部

人と防災未来センター

こころのケアセンター

学術交流センター

地方都市へ移住する若い世代の実情と彼らが地域に与えるインパクト

研究員 初田直哉



はじめに

私が担当する「若者にとって魅力ある多自然地域拠点都市の形成方策に関する研究」では、多自然地域・過疎地域と都市部の中間にある「多自然地域拠点都市」を対象としている。多自然地域拠点都市とは、大都市部以外の多自然地域の中心にあり、一定の都市機能が集積されている地域のことで、都市的機能の集積と豊かな自然環境がバランスよく共存しており、若い世代を吸引する大きな潜在力を持っているといえる。兵庫県では篠山市、丹波市、西脇市、朝来市、豊岡市等が該当する。

これらの都市は、地理的に見ても人口移動的に見ても大都市部と多自然地域を結ぶ結節点となっており、この地域における活力の維持・形成が後背にある過疎集落等を含んだ多自然地域を含めた地方創生のキーポイントの一つと考えられる。

だが、地方創生の議論は過疎集落等に代表される多自然地域に向けられがちで、この地域はこれまであまり重点的な議論がされてこなかった。

本研究は、この地域の潜在力を顕在化させることにより、後背地域を含めた地方の創生を実現していく端緒となる施策を検討することを目的としている。

多自然地域拠点都市とその機能 —「ダム」でも「ストロー」でもなく「ポンプ」—

上述のように、都市機能と自然等の資源がバランスよく共存しているだけでなく、人と人のつながりも絶妙なバランスで残っている。このような環境は、ライフスタイルの多様化が進む若者世代の心をつかむ可能性を十分持っており、すでに一部の若者(特に豊かな暮らしのあり方を考える人たち)はその魅力に気付いて移住する者も現れ、地域の魅力を発信する者や地域の担い手として活躍する者、中には古民家を求めて多自

然地域へ移住する者もいる。

このような動きが活発化すれば、周辺の多自然地域から人を吸い上げる「ストロー」でも、多自然地域から都市部への人口流出を一時的に食い止める「ダム」でもなく、逆に都市部から人を吸い上げ、多自然地域に人を供給する「ポンプ」として機能させることが期待できる。

その際、「ポンプ」としての役割を果たすためには、一定の基盤となる地場産業や小さなクリエイティブ企業等が必要と思われる。

移住している若い世代の実際 —クリエイティブな職種への転職・就職—

そのような「ポンプ機能」を発揮させるための施策を検討するに当たって、実際にこれらの地域へ移住している人たちの考えを知ることが重要と考え、対象地域の移住者を探し出しヒアリング調査を実施した。

その結果分かってきたことは、地方都市への移住というと、「就農」や「カフェやレストラン等の起業」をイメージしていたが、意外にそのような「おおごと」ではなく、「地域の既存の企業に就職・転職してきただけ」ということが多いことが分かった。

例えば、西脇市の東京から移住してきた洋服デザイナー(男性・20歳代)は、地場産業である播州織の生地生産会社が自社製品を使用した洋服の販売に乗り出そうとしている情報をつかみ、生地生産会社に直談判し就職につなげた。現在では西脇市郊外に古民家を借り、周辺の耕作放棄地で栽培した綿花で、地域の人々と都市部のデザイナーの「綿花活用ワークショップ」を運営している。

また、丹波市では、大阪や京都から移住してきたWEBデザイン関係の仕事をする人たちの話を聞くことができた。大阪や京都で就業していたが、転職を考え新たな就職先を探してい

たところ、たまたま丹波市のデザイン会社の取り組み(地域活性化にデザインを活かすこと)に興味を持ち転職したという。

こうした事例から見ると、「地方には仕事はない」というのは、あながち事実ではなく、自然豊かな環境で「クリエイティブな仕事をしたい」と思っている都会の若い世代を捉える職場はあり、いかにそのような職場を都会の若者の心を捉えるようにアピールし、またそのような職場を増やしていくかが、今後の課題であることが分かった。

人口減少と移住者が地域に与えるインパクトについて

また、移住して来た若者は単に移住しただけでなく、地域にいろいろな影響力を発揮しており、その影響は、仕事を通じた地場産業の活性化に留まらず、地域人として地域活動に参加したり、さらには都会からの新たな風も地域に吹き込んだりしている。

そのような移住者は転入人口の1人として計量されるだけでなく、それ以上に地域に活力をもたらしているともいえる。

そのもたらされた影響力は転出した人(特に大学進学時に転出し、それまであまり地域で活動をしていない人)によるそれを大きく上回るものと思われる。

本研究では、地域の活力の指標は人口の転出入の増減といった単なる「数」ではなく、こういった人物が地域に与える影響力の「量」すなわち「地域インパクト量」であることに着目し、その量の転入超過を実現する対策を検討しようとしている。

具体的にいえば、地域インパクト量の指標として、「対経済インパクト」「対地域コミュニティインパクト」「対交流促進インパクト」「対ネットワークインパクト」が考えられ、こうした指標が地域活力の増減やポンプとしての機能を考える上での判断基準となるのではないかと考えている。

おわりに

今後、移住実行者と移住未実行者という双方向のアプローチから、移住への実態を把握することで移住の課題を明確にし、移住しやすい施策の検討をしていく予定である。

情報ひろば

学術交流センター

21世紀文明研究セミナー2015受講者募集

当機構の研究成果を広く県民に還元するとともに、HAT神戸における国際関係機関等の集積を生かして、阪神・淡路大震災が提示した近代文明の課題について幅広く議論を深めるため、高度で専門的な知識を求める研究者、行政・企業関係者、NPO関係者、大学院生、一般県民等を対象とするセミナーを開催します。

- ▶日時=10月~平成28年3月の水曜・金曜の午後(90分)
 - ▶場所=人と防災未来センター(東館)、兵庫県立美術館
 - ▶内容=①安全安心(減災社会に向けての新たな視座)②共生社会(多自然地域の魅力を活かした地域づくり)③防災(自然災害からの復興・復旧への備え)④環境(地球温暖化への取り組み)⑤芸術(美術展を深く楽しむーさまざまなメディア・技法・表現)の5分野全30講座
- ※講義の後に質疑および討議を実施
- ▶定員=各講座30名程度(先着順。1講座から受講申し込み可能)
 - ▶対象=研究者、行政・企業関係者、NPO関係者、大学院生、一般県民等
 - ▶受講料=1講座につき500円
 - ▶申し込み方法

- (1)FAXまたは郵送(リーフレット折り込みの受講申込書(※)をご使用ください。)
- ※下記ホームページからダウンロードした受講申込書も使用できます
- (2)Eメール(件名を「文明研究セミナー申し込み」とし、①受講を申し込みようとする講座の月日・テーマ名②氏名③性別④年齢⑤連絡先(住所・電話番号・Eメール)⑥所属名⑦職業を明記してお申し込みください。)

●問い合わせ
学術交流センター事業課
TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122 Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp
http://www.hemri21.jp/exchange_center/index.html



セミナーの様子(昨年度)



平成27年度 兵庫自治学会研究発表大会のご案内

兵庫自治学会では、平成27年度の研究発表大会を以下のとおり開催します。どなたでもご参加いただけますので、ぜひ積極的にご参加ください!(参加無料)

- ※参加申込書(チラシ)は<http://hapsa.net/>からダウンロードいただけます
- ▶日時=10月17日(土)10時~18時
- ▶場所=兵庫県立大学・神戸商科キャンパス(神戸市西区学園西町8-2-1)
- ※神戸市営地下鉄「学園都市」駅下車徒歩約10分
- ▶大会テーマ「自立的で持続的な地域社会の創造について」

人口減少の克服や東京圏一極集中の是正など地方創生の動きが本格化する中で、各地域において自立した活力ある社会の構築が求められています。

そこで、自立的で持続的な地域社会の創造に向けて、地域の元気づくりをどのように進めていくか、その課題と解決策について考えます。

- 総会(10時~10時35分)
- 全体(10時45分~12時30分)

基調講演

演題「コミュニティデザインによる地域の元気づくり」

講師：山崎亮(studio-L代表、東北芸術工科大学教授、京都造形芸術大学教授、慶応義塾大学特別招聘教授)

- 分科会(13時30分~16時55分)
- 第1分科会 地域づくり
- 第2分科会 教育・福祉
- 第3分科会 産業
- 第4分科会 防災
- 第5分科会 保健・環境
- 交流会(17時~18時)

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか。

■会員になるには
年会費2,000円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。
兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO職員・個人

●申し込み・問い合わせ
兵庫自治学会事務局
((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 学術交流センター内)
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
人と防災未来センター東館6階
TEL 078-262-5714 FAX 078-262-5122 Eメール gakujuetsu@dri.ne.jp
<http://hapsa.net/> (←入会フォームはこちら)

兵庫県こころのケアセンター

「こころのケア」シンポジウム参加者募集

兵庫県こころのケアセンターの研究報告と、「脳科学から見た児童虐待」をテーマとする講演を行います。

▶日時＝11月19日(木)13時30分～16時30分

▶場所＝兵庫県こころのケアセンター

▶プログラム

第1部 研究報告－亀岡副センター長兼研究部長による研究報告－

第2部 講演「脳科学から見た児童虐待」

講師：福井大学子どものこころの発達研究センター教授 友田明美氏

▶定員＝200人

▶参加費＝無料

▶申し込み方法＝所定の参加申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送かFAXまたはEメールで下記へ。先着順で受け付け、定員になり次第、締め切ります。

※兵庫県こころのケアセンターのホームページからプリントアウトできます

●申し込み・問い合わせ

兵庫県こころのケアセンター 研修情報課

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017 Eメール kensyu@j-hits.org

http://www.j-hit.org/

兵庫県こころのケアチーム 「ひょうご DPAT」について

「ひょうごDPAT」とは、県内外における自然災害や犯罪事件、航空機・列車事故等大規模災害の被災者および支援者に対して、精神科医療および精神保健活動の支援を行う専門チームです。

兵庫県では厚生労働省の通知を受けて、平成26年12月19日に「ひょうごDPAT」が発足しました。「ひょうごDPAT」は、医療と行政の混合チームで編成される兵庫県独自の体制であり、阪神・淡路大震災後のさまざまな自然災害、事件、事故に対してこころのケア活動を積極的に行ってきた兵庫県のこころのケア対策は全国から注目されています。

チームとしては原則病院単位で、精神科医、精神科看護師、精神保健福祉士または臨床心理士、ロジスティクス(県職員等)の4～5人で構成されます。兵庫県こころのケアセンターからは、医師3人、臨床心理士4人、精神保健福祉士2人、保健師1人が「ひょうごDPAT」公的職員等(ロジスティクス等)として登録しています。発災時には、「ひょうごDPAT」の一員として被災地の保健師等チーム、医療救護班と連携し、精神科医療の提供、支援者支援、避難所の巡回、仮設住宅の訪問等を行います。

平成26年度は、「ひょうごDPAT」の創設に当たり、「ひょうごDPAT」活動マニュアルver1.0の作成とDPAT登録医療機関の人を対象にした研修会を行いました。研修会は登録チームで参加してもらい、災害時のこころのケア、「ひょうごDPAT」活動について活発な意見交流が行われました。参加者からは、災害を想定したシミュレーションやロールプレイ、内容のステップアップなどを望む声がありました。

今後は、災害時に精神科救急医療から精神保健活動までの幅広い活動ができる「ひょうごDPAT」を目指して、研修会を継続していきたいと考えています。



ひょうごDPAT研修会



ひょうごDPAT活動マニュアル(ホームページに掲載)

● 地域支援活動の紹介 ●

こころのケアセンター相談室は、日常の電話・面接によるトラウマ(こころの傷)・PTSD(心的外傷後ストレス障害)等「こころのケア」に関する相談業務を行うとともに、地域の医療機関、相談機関、行政等との連携窓口としての役割も担っています。

また、県内外で発生した災害や事件、事故等に起因する「こころのケア」については緊急的・集中的な対応が必要であり、地域等からの要請がある場合には、支援体制についての助言をはじめ、「兵庫県こころのケアチーム」の派遣による現地での被災者(被害者)および支援者への直接的な「こころのケア」活動を行っています。

東日本大震災では、「兵庫県こころのケアチーム」として現地に赴き、支援活動と現地スタッフへの研修等を行いま

した。その後も、宮城県の保健所や市町保健センター、東北3県のこころのケアセンターに対して継続的なコンサルテーションを行っています。

さらには、東北大学や福島こころのケアセンターと共同で、サイコロジカルリカバリー・スキル(SPR)

を普及させるため研修受講生や興味のある人に身近に感じSPRを実施していただけるよう、教育DVDを作成し平成27年6月に当センターホームページに掲載しました。

一方、子どものトラウマ反応についてのコンサルテーションやトラウマ・フォーカスト認知行動療法(TF-CBT)についての研修など、子どものこころの健康について継続的に支援しています。

最近では昨年8月の台風11号による丹波市豪雨災害において「こころのケア対策本部」として県障害福祉課、精神保健福祉センターと共に現地で情報収集を行い、支援体制についての助言を行うとともに、丹波市職員のこころのケアに関する研修会の講師として加藤センター長を派遣するなど、支援者のこころのケアを実施しています。

また、今年3月の洲本市5人殺害事件など県内で発生した事件、事故等に対しても、体制整備についての助言等の支援を実施するとともに必要に応じて専門医療につなげています。

今後とも「こころのケア」に対するこれまでに積み上げた活動を基に、災害や事件、事故等の発生時の支援活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています。



丹波市豪雨災害支援会議(丹波市)



被災者健康支援会議(宮城県)



地元支援スタッフとの打ち合わせ会(洲本市)

主な活動実績

- 東日本大震災
- 中国四川大地震災害
- スマトラ島沖地震における津波災害(インドネシア)
- 新潟県中越地震災害
- ニュージーランド地震災害
- 能登半島地震災害
- 新潟県豪雨災害
- 平成21年台風9号災害(佐用町・宍粟市)
- JR福知山線脱線事故
- 平成16年台風23号災害(但馬・淡路市)

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

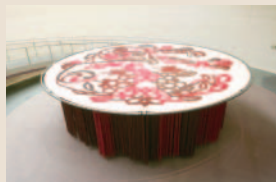
県美プレミアム

小企画「美術の中のかたち―手で見る造形 手塚愛子展 Stardust Letters ― 星々の文」

視覚に障がいのある方にも鑑賞の機会を提供する毎年恒例の企画で、作品に触れることのできる展覧会です。今回は、糸を用いた手塚愛子(1956-)の作品を展示します。

特集「VS(ヴァーサス)―コレクション新旧対決!？」

前身の県立近代美術館が開館した1970年以来、当館では作品の充実に努め、その数は約9,000点に達しています。本特集ではこの1年で新たに収集された作品とそれまで収蔵してきた作品で、複数のテーマに沿って「対決」を試み紹介します。



手塚愛子〈薄い膜、地下の森〉2007年
撮影:市川勝弘(参考図版)



奥田善巳〈ネガへの挑発〉1967年

- 会期=11月8日(日)まで
- 観覧料=一般510(410)円、大学生410(330)円、高校生260(210)円、65歳以上255(205)円、中学生以下無料
- ※障がいのある方とその介護の方1人は無料
- ※()内は20人以上の団体割引料金
- ※9月30日(水)まではクールスポット期間として、上記各観覧料の半額となります

パウル・クレー だれにもないしょ。

スイス出身の画家パウル・クレー(1879-1940)の「秘密」に迫る回顧展です。画家自身が「特別クラス」と位置付け、個人的な記念や画業の展開の鍵となった作品約40点を含む110点余りが集結。クレーが作品に仕掛けたひそやかな暗号をひもとくとともに、「秘密」の世界に通じる存在としての子ども、さらには奇妙な動物や天使たちを描いた作品を紹介いたします。

- 会期=11月23日(月・祝)まで
- 観覧料=一般1,400(1,200)円、大学生1,000(800)円、高校生・65歳以上700(600)円、中学生以下無料
- ※障がいのある方とその介護の方1人は各当日料金の半額(65歳以上を除く)
- ※()内は20人以上の団体割引料金(65歳以上を除く)

- ◎休館日=月曜(9月21日は開館し、24日は休館します)
- ◎開館時間=10時~18時(特別展開催中の金曜・土曜は20時まで)
- ※入場は閉館の30分前まで
- TEL 078-262-0901 <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>



〈洋梨礼讃〉1939年 個人蔵(スイス)
パウル・クレーセンター(ベルン)寄託
©Zentrum Paul Klee c/o DNPartcom

JICA関西

食べることから始める国際協力! JICA関西食堂の月替りエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア方式)は、どなたでもご利用できます。完全禁煙で、安心して料理を楽しめ、子供椅子もご用意していますので、お子様連れも歓迎です。大好評の月替りエスニック料理(10月はラオス料理)もご用意します!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。



8月のルワンダ料理

メニューの詳細と写真については、
こちら→ <http://www.jica.go.jp/kansai/office/restaurant/index.html>
■営業時間=(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー
※年中無休(年末年始を除く)

◎申し込み・問い合わせ
JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西国際センター)市民参加協力課
TEL 078-261-0341(代表) FAX 078-261-0342
Eメール jicaksic-event@jica.go.jp
その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!→<http://www.jica.go.jp/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

赤十字の講習のご案内 ~「もしも」に備える~

日本赤十字社では、万が一の病気やけが、災害などに備え、人の命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識と技術を身につけてもらう講習を行っています。

もしものとき、大切な人の命が救えるよう受講してみませんか?

- 講習内容・日程
- ◆救急法基礎講習(1日受講)=11月7日(土)/12月6日(日)/平成28年1月16日(土)
- ◆救急法救急員養成講習(2日間受講)=11月28日(土)・29日(日)
- ◆救急法基礎・救急員養成講習(3日間受講)=12月19日(土)・20日(日)・23日(水・祝)/平成28年1月9日(土)・10日(日)・11日(月・祝)
- ◆幼児安全法(2日間受講)=12月12日(土)・13日(日)
- ◆科目別講習(講習の一部のテーマを短時間で習得できます)
- ・健康生活支援講習「だれもが知っておきたい介護の基礎知識」11月14日(土)
- ・健康生活支援講習「認知症高齢者への対応・癒しのハンドケア」11月14日(土)
- ・幼児安全法講習「こどもに起こりやすい事故の予防と手当について」12月18日(金)
- ・幼児安全法講習「乳幼児の一次救命処置(PBLS)」12月18日(金)

※そのほかにも講習があります。詳しくはHPをご覧ください



ハートマーク

活動資金にご協力をお願いします

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。

◎お問い合わせ
TEL 078-241-1499

あった、あった、ここや。
えらい大きい会社やなあ、ドキドキしてきたわ。
あかん、鎮まれ心臓
営業マンに弱気は禁物、最初が肝心や。

初めて出会った
人と人との
つながり。

それが、
わたしたちのしごとです。

「はじめまして。カワサキと申します」
名刺を交換したらお付き合いの始まり。
小さな紙片からどれだけ仕事広がるか、
さあ、ガンバルぞお〜!

夏休み防災未来学校

1枚の布から、足元を守るはきものをつくろう!

阪神・淡路大震災では、割れたガラス等で家の中で足をけがをする人がいました。その実体験を踏まえ、靴やスリッパが身近にないときに、バンダナとひもという身近な物を使って簡易な履物を作る方法を学びました。かわいだけでなく、新聞紙等身近にある素材を使って強度を保つ方法なども併せて習いました。



ロープワークでミサンガをつくろう!

靴ひもやネクタイの結び方もロープワークの一つですが、このプログラムでは、縄ばしごとしても活用できる“二重八の字結び”と“本結び”を学びました。まずはロープで結び方を覚えた後、そのロープワークを使ってオリジナルのミサンガを作りました。参加者は、かわいいミサンガを楽しく作りながら、その過程でしっかりと結び方を覚えました。



どこまで重さに耐えられる? ストロー建物をつくろう!

建物の構造を学びながらストローを柱とした家の模型を作り、その強度を測る実験を行うプログラムを開催しました。参加者は、筋交いや柱の位置などを考えながら、熱心に強度のある建物を制作していました。紙とストローを使った簡単な工作であることから、小さな子どもから大人まで楽しく参加できるプログラムとなりました。



紙だけ!つかって、いろいろつくろう!

阪神・淡路大震災では、家の食器が全て割れてしまったり、避難所の体育館や教室で敷物がないため寒い思いをした人たちがいました。そういうときに役立つ知識の一つとして、身近な「紙」を使った紙食器や紙トレイ、座布団代わりとして使える“編み込み折り”の折り方などを学びました。普段から文房具入れやコースターなどとしても使える折り方であるため、日常で使うことにより、いざというときにも役立つ知識となることを伝えました。



地震・津波のサイエンス実験

近い将来起こるといわれている南海トラフ巨大地震について学び、その上で地震や津波の仕組みや性質を知る実験を行いました。アクリルケースを用いた津波の実験では、地形による津波の特徴の違いを、また小麦粉とココアパウダーで作ったミニチュア断層のモデル実験では、地震が起こるとききの地層の動きを確認しました。実際目で見ることにより、小学生にも分かりやすく伝わったようでした。



ペットボトル地震計をつくろう!

本物の地震計に触れ、地震計の仕組みの説明を聞いた上で、ペットボトルや乾電池を使ったペットボトル地震計を作りました。保護者とペアで参加するプログラムなので、難しい工程も大人と子どもが協力し合って完成させていました。地震観測を行っている京都大学阿武山地震観測所サイエンス・ミュージアム構想の協力を得て作った本格的な地震計は、夏休みの工作にもなる作品です。



2015レポート

センターでは夏休み期間中(7月19日～8月31日)に、子どもから大人まで楽しみながら、防災・減災について学ぶことができる各種参加型プログラムを用意し、災害のこと、防災・減災のことを家族や友達と一緒に考えるイベントを行いました。

みんなに役立つマークをデザインしよう!

言葉が分からなくても内容が分かるようにトイレ、非常口、エレベーター、エスカレーターなど、街の中にはさまざまなマークがあります。そういう今世の中にあるマークの他に、新たにあればいいと思うマークを考え、各自でそのデザインを行いました。マークの持つ意味や意義を知るとともに、災害や防災に関係することでも避難所等のさまざまなマークがあることを学びました。



夏のおはなしひろば

センター恒例の絵本と紙芝居のおはなし会を開催しました。ひとぼう未来サークルおはなしひろばチームだけでなく、神戸学院大学ボランティア活動基金VAFの学生も読み手として参加し、HAT神戸に住む小さな子どもたちと楽しいひとときを過ごしました。



資料室ミニ展示&体験 防災ゲーム本気あそび

人と防災未来センター資料室が所蔵する18種類の防災ゲーム(写真:なまずの学校)や、防災ゲーム「クロスロード」の設問に答えてもらい、来場者の皆さんにも参加いただくコーナーを作りました。そして防災ゲームの実践例として、「イザ!カエルキャラバン!」などの紹介パネルも設置しました。



謎解き!ひとぼうツアー

人と防災未来センターの施設やシンボルマーク、モニュメントなどの謎をスライドを使って、一緒にひもといっていました。普段は入れない収蔵庫へも案内しました。収蔵庫内では震災資料についてもっと知ってもらえるようにと、収蔵環境や資料の説明も行いました。



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間 9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生	小・中学生
600円(480円)	450円(360円)	300円(240円)	無料

※()は20人以上の団体料金
※障害者、65歳以上の高齢者は上記の半額

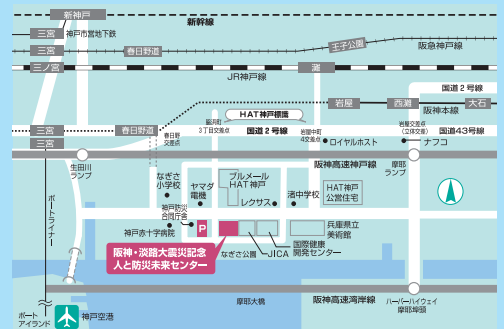
休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月6日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

- 鉄道**
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
 - ・JR「灘」駅南口から徒歩12分
 - ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分
- バス**
- ・三宮駅から約15分
- 車**
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
 - ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
 - ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



「災害メモリアルアクションKOBЕ」の始動

このたび、センターが事務局となり、京都大学防災研究所と共催で、関係各所からの協力を得ながら、「災害メモリアルアクションKOBЕ」という取り組みを行うこととなりました。

この取り組みは、1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005年実施）」、そして、その教訓を次世代に伝えることを行った「災害メモリアルKOBЕ（2006～2015年実施）」に続くものとして、この先の10年を見据えながら、分野や地域・世代を超えて交流し、学び合うことによって、災害を減らすことを目的として行うものです。

阪神・淡路大震災、東日本大震災などを経験した日本では、次の災害として南海トラフ巨大地震、首都直下地震などの発生が危惧されています。いざというその時、中心として活躍することとなる今の大学生・高校生に阪神・淡路大震災の教訓を活かすことができる人材になっていただくことを目指します。

7月12日（日）に、参加学生が初めて集まり、今後のテーマや進め方についてワークショップを開催しました。今後、各班に分かれて「体験・取材・交流」などを通じて、「神戸のコトバ」を拾い集め、その内容を小・中学生や地域の人たちへ「伝える」場を設けることとしています。



ワークショップ風景



発表

実践的防災研究について兵庫県および内閣府との意見交換会を実施

センターで実施している実践的防災研究について、7月9日（木）に兵庫県と兵庫県災害対策センターにおいて、8月3日（月）に内閣府と中央合同庁舎8号館（東京）において意見交換会を開催しました。

センターは大学の研究機関と異なり、実践的な防災研究を柱の一つにしていることから、設立・運営費の出資母体である兵庫県と国（内閣府）に対し、定期的に研究成果や研究計画内容を研究員から説明し、防災・減災の最前線にいる行政機関の意見を聞き、そのニーズを研究内容に取り入れています。

兵庫県との意見交換会では、副防災監をはじめ県防災部局幹部職員が参加する中、特命研究の「県民の防災・減災に対する意識調査」について、県が実施してきたアクションプログラムの内容とのリンクについて意見が出されるとともに、特定研究の「災害の記録・記憶の保存・継承に関する研究」では、地震発生から90年が経過する北但馬地震やこれまでの円山川の水害などの検証の方法などについて意見がありました。

また、内閣府との意見交換会では、内閣府官房審議官をはじめ復興庁、文部科学省、消防庁、国土交通省、気象庁等関係省庁の職員も多数出席する中、「中核的研究プロジェクト」について、孤立可能性集落への支援研究の目的と調査方法などの質疑を受けるとともに、大規模災害時の震災関連死を減らす方策や災害時の物資搬送についての研究のさらなる進展を期待する旨の意見がありました。

今後とも、人と防災未来センターでは、実践的防災研究を進めていきます。



兵庫県との意見交換会



内閣府との意見交換会



Hem21 NEWS
vol.53

平成27年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究調査本部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

●学術交流センター

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください